

令和7年度 授業改善推進プラン < 国語 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の時、国語が好きだったという生徒は、各クラス1,2名いる。 ○漢字テストや作文を苦手とする生徒が多く、国語が嫌な理由にもなっている。 ○読解力に課題がある生徒が半数以上いる。教師が質問をしても、友達の解答や教師の説明を待っている様子も窺える。 ○漢字テストは意欲をもって取り組む生徒とそうでない生徒で、二極化している。 ○初めての定期考査では、知識・技能に関する学習について努力がみられた。しかし授業の復習やワークでの学びの確認ができてない生徒も一定数いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼関係を築き、文章を読んで考えることは楽しいと思える授業を目指す。努力していることを認め、成果が出るまで頑張る体験を応援したい。クラスに学習意欲を高め合える雰囲気をつくる。 ○読解のポイントを指導し、発問を工夫し、自分で文章を読んで答えられる生徒を増やす。理解の程度に応じた発問も準備する。 ○学習した内容を理解できるよう、ノート作り工夫できるよう指導する。 ○適宜タブレットを使用して、対話的な活動を通して、他者から学ぶ機会を設けていく。その際、自分の考えがどう変容したか自覚できるような発問をしたりするなど、授業を工夫する。 ○テスト勉強の仕方を振り返らせ、助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一年間を通して徐々に、国語の楽しさ(心情を様々な部分から読み取ることや、伏線を理解することなど)がわかるようになったと答える生徒は増えていった。 ○漢字小テストの取り組みは長い間の課題だったが、段々と学習する生徒が増えていった。三学期になるとどのクラスも取り組む意欲が急激に高まって漢字の読み書きの能力向上につながった。 ○「授業の振り返り」時、漫然と文章を読んでいた生徒が、「読み取るポイントを意識できるようになった」等と表現するようになってきた。 ○タブレットを利用する授業では、自分達で考えた課題を他者と考えを交換しながら、意欲的にスライドを作る生徒が多かった。発表後の感想にも達成感が得られたことが綴られていた。 ○最後の定期考査でも努力をして結果を出す生徒が多かった。

	課題分析	授業改善策	評価
2 年	<p>【知識・理解】 (ア)漢字の書き問題を苦手とする生徒が多い。 (イ)文法問題を苦手としている生徒が多い。</p> <p>【思考・判断・表現】 授業で扱った内容でも言葉や表現を少し変えると理解できない生徒がみられた。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 暗唱課題などで多くの生徒が主体的に取り組むことができている。一方で、タブレット上での提出課題は未提出になっている生徒が多くみられた。</p>	<p>【知識・技能】 (ア)漢字 50 問テストの回数を増やし、漢字の書き取りを行う機会を増やす。</p> <p>(イ)文法を担当している講師と連携しながら、授業内で復習の機会を設ける。</p> <p>【思考・判断・表現】 単元目標・本時のめあてと学習内容を結び付けることをさらに強化し、重要部分が明確になるように指導を行う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生徒自身がテーマを決めて意欲的に取り組むことができるタブレットの課題を設定する。また、グループワークを積極的に取り入れ生徒が提出課題などでどのようなことを書けばいいかほかの生徒から学ぶ機会を設ける。</p>	<p>【知識・技能】 ○50 問テスト、および毎回の漢字テストによって漢字の読み書きの能力の向上が見られた。</p> <p>○文法については 3 学期の試験で基礎的な問題を多くの生徒が回答することができており、年間を通じて能力の向上が確認できた。</p> <p>○一方で漢字・文法ともに生徒ごとのレベル差があり、苦手意識を持っている生徒は依然点数が上がらない状況が見られる。家庭学習への意識にも依然課題が見られるため、家庭学習についての具体的課題の提示や勉強方法の紹介などを引き続き行っていく。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○物語文などでは学習の目当てと内容を結び付けながら、表現効果や人物描写を考える生徒が増加した点は評価できる。一方で、単元の振り返りをみると、重要ポイントを理解せずに思いついたことを書いている生徒も見受けられるため、授業中に常に本時の目標を確認できるなど、授業の改善を行っていく。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○生徒自身がテーマを決めて主体的に表現をする機会を年間通して設けた。結果として、自身の興味や考えに基づいて表現をする生徒が多く見られた。一方で、意欲的に学ぶ生徒と消極的な生徒との間に格差が生まれてしまっているという課題もみられた。 今後はタブレットの活用をさらに進め、いつでも課題に取り組む環境づくりの整備を行っていく。また、授業内で他の生徒の作品や感想に触れる機会をさらに増やしていく。それにより、どのように表現すればよいか他の生徒から学ぶことで、消極的な生徒も自身の学習を進められるように図っていく。</p>

- 漢字テストや作文を苦手とする生徒が多数いる。苦手意識が、国語嫌いの一因となっている。
- 漢字テストへの取組に二極化がみられる。意欲的に学習する層と、意欲が低い層との差が拡大している。
- 読解力に課題のある生徒が半数以上いる。発問に対して自力で考えず、友人の解答や教師の説明を待つ傾向がみられる。
- 知識・技能面では一定の努力が見られた。一方で、授業内容の復習やワーク等を用いた学びの定着が不十分な生徒も一定数存在する。学習習慣や学びの確認方法に課題がある。

- 信頼関係を基盤に、「文章を読んで考えることは楽しい」という体験を積ませる。努力している姿を認め、成果が出るまで粘り強く取り組ませる。
- 読解のポイントを明確にし、自力で文章を読み取れるよう発問を工夫する。理解の程度に応じた段階的な質問を用意し、思考を促す。
- 学習内容の理解を深めるために、ノートづくりの方法を具体的に指導する。定期考査に向けて、テスト勉強の方法を振り返らせ、助言を行う。
- タブレットを適宜活用し、対話的な活動を通して他者から学ぶ機会を確保する。自分の考えの変容に気付けるような発問や共有活動を工夫する。

- 漢字や語句などの知識・技能面については一定の成果が見られ、学年末考査においても基礎的な問題では高い正答率が確認された。日常的な漢字練習や小テスト等を通して、継続的に取り組む生徒が増えたことは成果である。
- 一方で、漢字学習への取組には依然として個人差が見られ、意欲的に取り組む生徒と学習が停滞する生徒との二極化が課題として残った。学習習慣が十分に定着していない生徒については、家庭学習の方法や学びの確認の仕方について、より具体的な支援が必要である。
- 読解力については、文学的文章では登場人物の心情や場面の変化を捉えることができる生徒が多く見られた。一方で、説明的文章において筆者の主張や論理構造を正確に読み取る問題では正答率が低く、文章全体の要旨を整理しながら読む力に課題があることが明らかになった。また、発問に対して自ら考える前に周囲の意見を待つ傾向も一部に見られ、自力で思考する学習姿勢の育成が引き続き必要である。
- 授業改善策として実施した、読解のポイントを明確にした発問や段階的な質問による指導は、生徒が文章の内容を整理しながら考える上で一定の効果が見られた。また、タブレット端末を活用した意見共有や対話的な活動により、他者の考えに触れながら自分の考えを深める場面も増え、生徒の思考の広がりにつながった。
- 今後は、基礎的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、説明的文章の読解を中心に、文章の構造や筆者の主張を整理しながら読む力を育成する必要がある。そのため、発問の工夫や段階的な指導を継続するとともに、ノートの取り方や復習方法を具体的に指導し、生徒が自ら学習を振り返り、学びを定

	課題分析	授業改善策	評価
			<p>着させる習慣を身に付けられるよう支援していく。</p> <p>○また、対話的な学習活動を適切に取り入れながら、自分の考えを言語化し、他者の意見と比較することで思考を深める授業を展開していくことが重要である。これらの取組を通して、「文章を読んで考えることの楽しさ」を実感できる学習環境を整え、生徒一人一人の国語力の向上を図っていく。</p>